

1 学校教育目標

○ 基礎基本を身につけ、自ら進んで学ぶ生徒 ○ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒 ○ お互いに協力しあい、ともに向上する生徒

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人が明るく元気に活動し、個性や能力を伸ばせる学校 ・教職員が信頼し合い高め合うことにより、組織的に機能する学校 ・保護者や地域から信頼される学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・文武両道を目指し、何事にも意欲的に取り組む生徒 ・人の気持ちを考えることができ、感性豊かで豊かな人間性を磨く生徒 ・自らの生き方に自信をもち、自己実現に向けて日々努力する生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生徒を人間として尊重し、良さや可能性を引き出す教師 ・指導力向上を目指し、常に自己研鑽に励む教師 ・保護者や地域から信頼され、協働して教育活動を行う教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

落ち着いた学習環境の下で、活発に教育活動が行われている。明るく素直な生徒が多く、学校行事や部活動等に熱心に取り組んでいる。
 教員は、互いに協働する意識が高く、意欲的に職務に取り組んでいる。保護者や地域は、学校の教育活動や行事等の取組に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】

〈成果〉・学習コンテストや各種検定の実施により学習意欲の向上が図られた。・いじめの未然防止を図るとともに、早期発見、早期解決を心がけた。
 ・CSやPTA、そして生徒共に校門前での朝の挨拶運動に取り組んだ。
 ・CS運営委員の方々が積極的に学校運営のサポートしていただき、PTAと共に生徒のための活動の場を設定してくれた。
 〈課題〉・「分かる授業」を目指し、常に指導内容や授業形態の改善に努める。・きめ細かな不登校対応を推進する。
 ・CSとして、地域の教育力を生かした教育活動や地域に根付いた学校づくりに努める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	自己肯定感の育成	○	○	○	○	○
3	保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
学習意欲の向上と 確かな学力の定着		区学力調査各教科 65%以上 定着度確認テストで 正答率 各教科 65%以上				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「分かる授 業」の実践	全教員	年間	「足立スタンダード」を活 用した授業を行う。 授業力向上を目指し、副校 長を中心に組織的にOJTに 取り組む。 教師だけでなく生徒のタブ レットやA Iドリルの活用 を図り、わかりやすい授業 の実践を進める。	生徒の授業評 価(わかりや すさ・ICT活 用) 教員同士によ る授業観察に おいて授業評 価	年度末 生徒アンケート 肯定的回答 共に95%以上 教員の授業評価 において「わか りやすい」内容 の記述			
2 継続	朝読書	全生徒	毎週 月～金 (除朝 礼時) 始業前 15分	読書習慣をつけ読解力の向 上を図るため、読書を行 う。	生徒生活アン ケート	1か月読書0冊 回答30%以下			

3 継続	放課後補充 教室	抽出生徒 国語 数学 英語	毎週月 火、木 放課後 60分	学習コンテストや各教科担 任が作成した確認テスト等 を行い、不合格生徒に放課 後 ICT 機器などを使用して 補習を行う。 自主学習教室では、教員や 学生ボランティアの指導と ともに生徒同士の教え合い 学習を導入する。 学習教室日以外は図書室で の学習できる環境を整え、 自学自習の促進を図る。	区調査問題を 活用した、定 着度確認テス ト	定着度確認テス トで、 正答率各教科 65%以上	自己評価の際に記入		
	自主学習教 室	希望生徒 全教科	毎週金 放課後 90分		自主学習教室 参加生徒数	参加生徒数 前年度増 290名以上			
4 継続	学習 コンテスト	全生徒 国語 社会 数学 理科 英語	年4回 5月 国語 9月 英語 12月 社理 1月 数学	全校で集中的に取り組む。 朝補習でプリント学習に取り 組ませるなど事前学習を 充実させる。 80点以上を合格とし、不 合格生徒には再テストや放 課後補習を行い、理解が不 十分な内容の補充を行う。	コンテスト 結果	各コンテストに おいて 合格生徒 (80点以上) 80%以上 優秀賞 (90点以上) 60%以上 満点賞 30%以上			
5 継続	サマースク ール	希望生徒 数学 英語等	夏休み 期間中 6日間 各日50 分×3	教科担任を中心に全教員 で、基礎基本の定着を図 り、理解が不十分な内容の 補充、克服を行う。 必要に応じて3年次に5 教科の授業を行い、入試に 向けたコースも開設する。	延べ参加 生徒数	参加生徒数 前年度増 (779名以上)			

6 継続	土曜スクール	全学年 希望生徒 国語 数学 英語	年9回 (各検定 前)	漢字、数学、英語検定において、目標とする級への合格を目指す。特に英検では3年生向けの区の施策を活用して受検者数の増加を目指す。 教科担任、CSやPTAで協働して市販の問題集等を利用して模擬試験を行い、学力の向上を図る。	漢字検定 数学検定 英語検定	検定合格率 75%以上 参加生徒数 前年度増 56名以上			
7 継続	小中連携活動の推進	全教員 希望生徒	年間 夏季休業中	研究授業を主体とした指導法改善のための研修会を行う。 小学校のサマースクールに、生徒を教師役として派遣する。	合同研修会 生徒派遣数	研修会開催 7回以上 生徒派遣数 20名以上			
8 継続	学びの環境整備	全教員	年間	特別支援教育コーディネーターを中心として、すべての生徒にとって「分かる」を実感できる教室環境の整備 また、生徒アンケートを通して生徒の自発的な活動を促す。	教室環境チェックシート並びに生徒アンケート	チェック年3回 チェックシート 95%クリア アンケート肯定的回答80%			

重点的な取組事項－２		自己肯定感の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
何事にも主体的、積極的に取り組む生徒の育成		生徒の学校生活評価で、取組項目の肯定的回答を95%以上にする。	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ボランティア活動の充実	生徒の学校生活評価「ボランティア活動に積極的に参加している」項目の肯定的回答を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子ボランティア」(名称変更予定)を中心に、ボランティア活動へ積極的に取り組ませる。 ・事前指導や講演会により意識を高めさせ、ボランティアリーダーを育成する。 ・個人による自主的なボランティア活動を推進する。 	自己評価の際に記入		
挨拶運動の充実	生徒の学校生活評価「自分から挨拶をしている」項目の肯定的回答を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・学年委員を中心に、ほぼ毎日、木は保護者、毎月15日は地域が参加して、朝の挨拶運動を実施する。 ・小中合同の朝の挨拶運動を実施する。 	自己評価の際に記入		
きめ細かな不登校対応の推進	30日以上欠席生徒数を前年度より減らす。	<ul style="list-style-type: none"> ・SCやSSW、関係諸機関との連携を積極的に図り、全教員で情報を共有しながら組織的に対応する。 	自己評価の際に記入		

生徒の実態把握	「こころの声」を毎月実施する。	・「こころの声」で生徒の変容を把握する。学年の教員を中心に全教員で供覧し、情報の共有化を図る。			
「いじめ0」運動の推進	生徒による「いじめ防止のキャンペーン」を実施する。	・生徒会本部や専門委員会を主体に、いじめ防止について取り組ませ、いじめ0を目指す。			

重点的な取組事項－3		保護者・地域との積極的な連携によるコミュニティ・スクール活動の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
保護者・地域からより一層信頼される学校づくり	保護者・地域の学校評価で、「学校への満足度」の肯定的回答を90%以上にする。	自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域でのボランティア活動の活性化	地域ボランティアへの延べ参加数を100名以上とする。	・地域行事や避難所運営訓練等へのボランティア生徒を積極的に募り、地域との交流を図らせる。 ・地域の住人の一人として自覚させ、自分の役割について考えさせる。	自己評価の際に記入		

意見交換会の実施	C S 運営委員と生徒及び教員との意見交換会を各1回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や教員の声地域に直接届けるとともに、地域から学校への要望を直接聞く会を実施する。 ・課題を共有しながら今後の教育活動を考えることにより、連携を深める。 			
C S 「協力し隊」活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域参観日を月2回以上実施する。 ・教育活動支援を発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域による授業参観の取組を継続する。課題を共有し、教育活動に生かしていく。 ・書写指導補助等、教科内容を踏まえた取組の充実を図る。 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

自己評価の際に記入

(3) その他 (学校教育活動全般について)